

恋人集う「日本のエーゲ海」

「日本のエーゲ海」と呼ばれる、岡山県瀬戸内市牛窓町。冬は夕日が海の近くへ沈み、海面に美しい「光の帯」を作り出す。バレンタインデーを控えた1月下旬の夕暮れ時、淡いオレンジ色に包まれた港町を歩いた。

牛窓の高台にある「牛窓オリブ園」。斜面に続くオリブ畑を横目に砂利道を10分ほど歩くと、小高い丘にたどり着く。息を整えて振り返った。瀬戸内海の島々の向こうに、空と溶け合いそうな水平線が見えた。

牛窓が「日本のエーゲ海」と呼ばれ始めたのは約35年前。この地を訪れたギリシャ人が、オリブ畑からのぞく海や空を見て「故郷に帰ったようだ」と言ったのが始まりという。

夏の観光地のイメージが強いが、近年は地元観光協会が景色や食事を売りに「牛窓デー」と名付けたイベントを冬に開催。3回鳴らすと幸せになれるというオリブ園の「幸福の

鐘」が2012年、静岡市のNPO法人に「恋人の聖地」に認定され、いっそうカップル客の誘致に力が入る。

公開中の映画「君と100回目の恋」のロケ地にも選ばれた。海岸沿いの町並みが舞台。西脇海水浴場近くのカフェ「岩風呂」では、主演のmiwaさんや坂口健太郎さんの出演シーンが撮影された。

午後5時ごろ、夕日を撮影しようとして海岸沿いを歩いていたら、寄り添うカップルを見つけた。瀬戸内市に住む2人は3カ月前に付き合い始めたばかり。手をつなぐのもどこか照れくさそうだ。彼氏(21)は「恥ずかしいけど、夕日を眺めていたら『離れたくない』って思った。『彼女の20は』寒さも後押ししてくれたかな」と笑う。

やがて夕焼けに彩られた空は藍色に変わり、静かな港町とまぶしい笑顔の恋人たちを包み込んでいった。(小川奈々)



海水浴場から続く石段を上ると、「牛窓の正面」にたどり着く。参道は森に囲まれているから「東備の鎮守」として町を見守っている。途中には、町を一望できる展望台があり、瀬戸内の穏やかな海が目の前に広がる。晴れた日には小豆島も見える。宮司の岡崎義弘さんは「プロポーズする人も多い。おおらかな気風なので、成功しやすいのかも」と話す。



MAP:山吹あらら